

俳句づくりと関連させた書写指導（三年）

新しい指導を考える会

1 実践の趣旨

本稿では、「国語3」（光村図書）に掲載されている「豊かな言葉 俳句の可能性」（p58～63）の学習と「書写」とを関連させた取り組みを紹介する。

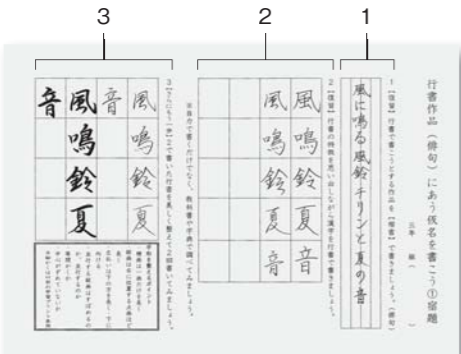
この教材を取り上げるときは、俳句の特徴や鑑賞に重点を置いた指導を行っているが、その学習のあと、しばしば俳句をつくらせることがある。地域では例年いくつかの俳句コンクールが主催されており、俳句学習に張り合いをもたせるために応募させている。また、コンクールに応募した作品を学園祭のときに展示するなど、学習意欲が高まるように発表の場を増やしている。今回は、この俳句を書写の知識や技能を活用させる「学習材」としてとらえ、行書の指導と関連させることとした。取り立て指導ではないからこそ、より身近なものとして、書写の知識や技能を意識させることができると考えた。

また、今回は、既習の技能を復習したうえで、行書に調和す

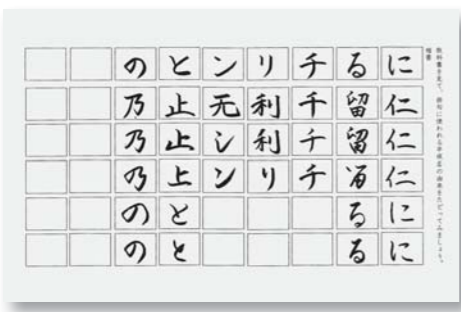
連載 新しい書写実践の試み ⑧

- ① 仮名の成り立ちを知って、行書作品にあう仮名を考える
- ② 仮名の成り立ちについて教え、実際に黒板に水筆で漢字からくずして仮名を書いてみせる。
- ③ 教科書「中学書写二・三年」（光村図書）「行書に調和する仮名の筆使いや字形を知ろう。」（p22～23）を見ながら、各自で書く仮名の由来を調べさせ、書かせる。（資料2参照）
- 第二時 学習目標
「行書の特徴を生かして作品を書く」
- ④ 既習の作品の「調和の知識」を生かして、何度も練り直せるように鉛筆を用いて構想を練る。なお、今回は、点画の終筆と次の画の始筆のつながり（連綿）を特に意識させた。（資料3参照）
- ⑤ 練習
- ⑥ まとめ書き・提出（資料4参照）

資料1



資料2



る仮名の指導を行った。これらの学習要素をふまえることにより、より整った作品づくりを目指すこととした。

2 指導の流れ（全2時間）

宿題 学習目標 「既習の事項を思い出す」

① 各自がつくった俳句を、ワークシートに楷書で書いてみる。（資料1の1参照）

② 俳句の中から漢字のみを取り上げ、楷書と行書で書いてみる。（資料1の2参照）

※このとき、楷書や行書の書体の特徴を思い出しながら書くように指導しておく。

③ 行書を書くときに学習した「字形を整えるポイント」を確認しながら、整った字形を書かせる。

【字形を整えるポイント】

- ・横画は二画だけを長く
- ・縦画は右に位置する点画ほど長く
- ・左払いの下を長く・下に向ける
- ・平行する縦画はすぼめるのか、平行するののか
- ・等間隔か
- ・中心がずれていないか（資料1の3参照）

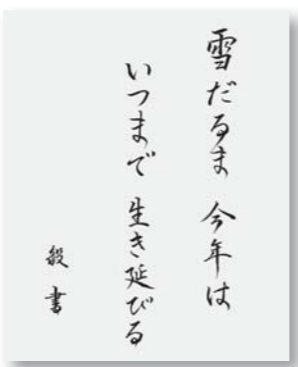
※①～③の学習は宿題にするため、自己流になりすぎないように、次時の冒頭で、教科書や字体辞典を用いて、字形の確認をさせる。

第二時 学習目標

資料3



資料4



3 成果と課題

本実践では、より整った美しい文字を書かせるために、積極的に教科書や字体辞典を用いさせた。その結果、生徒自身も満足できる作品に仕上げることができた。また、漢字から仮名をとらえさせることで仮名の字形の許容範囲を知り、連綿にチャレンジさせることができた。与えられた言葉ではなく、自分でつくった俳句を学習材とすることで、生徒たちはこれらの学習に意欲的に取り組めたように思う。

取り立て指導だけでは、書写の知識や技能はなかなか定着しない。取り立て指導の中で培ってきた知識や技能を活用したり定着させたりする機会を、指導者が積極的かつ計画的に年間学習計画の中に位置づけていくことが大切だと感じた。